

R S T 6分野7項目〈推論〉

推論は基本的知識と常識から論理的に判断する力

推論の基本は、「Aが正しければBが正しい」ということと「Bが正しければCが正しい」という情報から「Aが正しければCが正しい」という結論を導くことです。いわゆる三段論法です。

R S Tでは、「Aが正しければCが正しい」ということを、Aの文を正確に読解する力と、小学6年生までの学校教育の知識と、生活の中で身につけていると期待される常識から導く能力を「推論」という枠組みで診断します。

推論では様々な知識や常識を総動員する

学校で学べることは非常に限られています。例えば、「スズメもカラスも鳥である」ということは、学習指導要領で教えるようにと定められているわけではありません。普段の生活や外部からの情報から知る常識です。この程度の常識が欠けていると、中学校の教科書を読んで意味を理解するのは厳しくなります。「推論」は、文の構造を理解した上で、生活体験や常識、様々な知識を総動員して文章の意味を理解する力です。

リーディングスキルテスト（R S T）の問題

では、リーディングスキルテスト（R S T）「推論」の問題をやってみます。

以下の文を読みなさい。

グリーンランドの大部分や南極は氷雪気候で、夏でも平均気温が0° C以下のため、1年じゅう雪や氷で覆われている。

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」、「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

グリーンランドの一部は氷雪気候ではない。

- ① 正しい ② まちがっている ③ 判断できない

正解は、①の正しいです。これは、普通の問題です。次は、どうでしょう。

以下の文を読みなさい。

日本の面積は、約3800万haです。1990年から2010年の間、毎年世界全体で失われた森林の面積は、日本の面積の約18%にあたります。

上記の文に書かれたことが正しいとき、以下の文に書かれたことは正しいか。「正しい」、「まちがっている」、これだけからは「判断できない」のうちから答えなさい。

1990年から20年間に、日本の面積の3倍以上の森林が世界全体で失われた。

- ① 正しい ② まちがっている ③ 判断できない

正解は、①の正しいです。これは、難しい問題です。

現状のAIでは、R S Tの推論の問題には歯が立ちません。人間だからこそできるのが推論です。しかし、そう簡単ではないことも事実です。「係り受け解析」「照応解決」「同義文判定」は、文の表層的な情報を読み取る能力ですが、「推論」は、文の意味を理解できる能力です。本校生徒のR S T結果を見ると、推論では苦戦していることがわかります。様々な知識や常識を総動員となると、なかなか容易ではありません。やはり、授業の中で地道に取り組んでいくことが重要です。